
9月29日

市丸乱菊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

9月29日

【Nコード】

N7610H

【作者名】

市丸乱菊

【あらすじ】

ブリーチの登場人物、松本乱菊の誕生日に……ブリーチのキャラクターの短編小説を書いています♪

9月29日

「おはようさん。」

京都弁のこの声……

日番谷と松本は後ろを振り返る。

「市丸っ！珍しい……」

少々びつくりしたような日番谷。

「っ！！いつ市丸隊長？な……どうしてこんな場所に？」

松本は非常にびつくりしてるようだった。

「何？来たらあかんの？」

いつものようにニヤッと笑みを浮かべた。

「いえ……」

少々うつむく松本。

「嘘やないのw嘘ww」

「お前は何しに来たんだ……」

やや呆れ顔の日番谷。

「いやー。3番隊で植えた柿が育ってなあ。そこでボクが干し柿作
って持って来てん」

と、沢山干し柿が入った袋を差し出した。

「それはどうも・・・」

無愛想に日番谷が受け取る。

「松本さんも好きやろ？」

松本の顔を覗き込む。

「はっはいつ！」

昔のように乱菊って呼んでくれないんだ・・・と心の中で思いつつ、条件反射で返事をした。

「有難うございます。市丸隊長。」

この言葉に市丸は非常にうれしそうな笑みを浮かべた。

「ほな♪食べてな♪バイバイ♪」

市丸が後ろ向き手を振りながら去っていく。

市丸の後ろ姿を見送ると、

「ほらよ・・・」

日番谷は松本の顔を見ずに、松本の方向へ干し柿の袋を差し出した。

「えっ・・・？たいちよー食べないんですかあ？」

いつもどおりの松本口調に戻っていた。

「いらねえよ・・・お前一人で食べ・・・」

気づいてねーと思ってんのか？こいつは・・・
思ったが口には出さなかった。

「もらっていいんですかあ？ありがとー」ございますうゝたいちよー
(ハート)」

日番谷に抱きつく松本。

「やめろっ！！！ったく・・・」

「しかし、本っ当においしそうな干し柿ですねえゝあたし大好きな
んですよw」

といいながら一口口に含んだ。

「あらっ！これおいしいじゃないゝ」

ギン・・・

覚えててくれたんだ・・・

ありがとう・・・。

「今日、仕事サぼろつかなあ・・・」
市丸は帰り道、歩きながらつぶやいた。

「ふぁーあ」

背伸びをした。

忘れるわけないやろ・・・
僕と乱菊が出会った日やのに・・・

つと・・・

まあ、乱菊目当てでってばれへんように、他の隊にも配つとかなあ
かなあ♪

市丸はそれから毎年、干し柿を他の隊にも配ることになる。

その事実を数日後に知った松本は、二日酔いになるまで飲み続けた
という。

何期待してたんだろう・・・
あたし・・・

「ばつかみたい・・・」

焼酎の入ったグラスを、コトン。と机に置いた。

終わり。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7610h/>

9月29日

2010年10月9日00時55分発行